

第2回「黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議」

日 時：令和3年1月14日（木）

14：00～15：50

場 所：富山県民会館8階
バンケットホール

1 開会

2 挨拶（中谷観光・交通振興局長）

観光・交通振興局長の中谷でございます。よろしくお願いたします。皆さまには、大変ご多用の中ご出席賜りまして、ありがとうございます。

本県この大雪、短期間にかなりの量が降ったということで、大変な状況になってきたわけですが、県民の皆さまには除雪にご協力いただきましたし、交通事業者の皆さまには、本当に一日も早い復旧ということで大変ご尽力を賜りました。改めてお礼を申し上げたいと思います。

本日は急遽、新田知事ですが、小此木防災担当大臣が来県されるということで、そちらの方に対応するということになりまして出席が叶いませんでした。お詫びを申し上げたいと思います。

また、新型コロナウイルス感染症につきましては、全国的に感染拡大が続いておりますが、本県につきましては「ステージ2」に引き上がったということで、一日も早い「ステージ1」に戻るということを、皆さんのお力をもって進めていきたいというふうに思っておりますので、県民の皆さまにはご協力を頂きたいと考えております。それでは、知事は欠席ですので、挨拶を代読させていただきます。

黒部ルートの一般開放・旅行商品化につきましては、平成30年10月に関西電力と富山県との間で、令和6年度から最大1万人の規模で実現することで合意をいたしました。黒部ルートが一般開放されることで、世界的な山岳景観を誇る立山黒部アルペンルートと日本一のV字峡谷である黒部峡谷を周遊することが可能となります。これは県民の長年の夢であり、関西電力の決意に敬意を表しますと共に、これまでご尽力をいただいた皆さまに、心から感謝を申し上げます。

今年立山黒部アルペンルートが全線開通50周年、黒部峡谷鉄道株式会社は創立50周年を迎えられ、再来年の令和5年には宇奈月温泉の開湯100周年、そしてその翌年の令和6年には、黒部ルートの一般開放が控えております。県といたしましてはアフターコロナの時代を見据え、黒部ルートの一般開放を生かした魅力的な旅行商品となり、立山・黒部が日本、そして世界中から選ばれ続ける観光地となるよう、関西電力をはじめ関係事業者の皆さま、黒部市や地元の皆さまとワンチームとなって取り組んでまいります。

本日は旅行商品の運営主体の選定ですとか、県や黒部市との取り組みについて説明を申し上げますので、皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 委員紹介（新任のみ）

4 議事

【司会】

なお、委員の皆さまにつきましては、本来であればお一人ずつご紹介すべきところですが、時間の関係もございまして、お手元の委員名簿、配席図をもってご紹介に代えさせていただきます。また、JR西日本の前田委員におかれましては、交通機関の影響で少し到着が遅れる旨、ご連絡をいただいております。

続きまして、本日の配布資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、お手元の次第の下の方に記載のとおり、まず「次第」。その下に「委員名簿」、その下に「配席図」。それから「資料1」としましてA4縦の資料ですが、「黒部ルートを含む旅行商品の運営主体の選定について」。それから「資料2」としましてA3横の「黒部ルートを含む旅行商品の企画運營業務に関する提案（概要）」について。「資料3」としまして、同じくA3横になりますけれど「一般開放・旅行商品化に向けた令和2年度の取組み状況」。「資料4」としまして「宇奈月温泉等の魅力創出・受入体制整備について」。あとA4カラーの資料となりますけれども、関西電力様よりご提出いただいている「宇奈月黒部ルート安全対策工事」について、と、以上となっております。もし、不足等ございましたらお知らせください。

それでは、ここからの進行につきましては、西村委員長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

【西村委員長】

よろしくお願ひいたします。

この会議は、ほぼ年に1回くらい開催して、令和6年度黒部ルートの一般開放に至るまで準備状況をチェックして、それぞれのお立場からいろんなアドバイスをさせていただいて、良いものにしていくというための会議です。今日の会議は、概ね15時30分頃まで予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

まず、全体としてそれぞれの資料を続けて説明していただきまして、その後委員の皆さまお一人ずつ、全員の方にご発言をいただこうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。ご発言にあたっては、全国の立場で色々関わっている方をこちらから指名します。その後地元の立場の委員の方に発言していただくということで、発言の機会がありますので、ご準備をよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、まず議事の1。黒部ルートを含む旅行商品の運営主体の選定につきまして、ま

ず県からご説明をお願いしたいと思います。

(事務局より資料1に基づき説明)

【西村委員長】

ありがとうございます。それでは続きまして、旅行商品の企画の方向性等につきまして、運営主体である株式会社JTBから、ご説明をお願いしたいと思います。

【株式会社JTB富山支店 杉浦支店長】

皆さま、改めましてこんにちは。新年あけましておめでとうございます。

このたび本事業の取り扱いをさせていただくことになりました、株式会社JTB富山支店長の杉浦でございます。本日はこのような貴重な機会を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。

本事業におかれましては、富山県様60年来の悲願でございますし、富山県にとどまることなく日本を代表する観光資源、そしてひいては世界ブランドになり得る素材であると、我々JTBグループとしても捉えております。この貴重な観光資源を大切な宝として、しっかりと磨き上げ、また皆さま方のご意見をしっかりと吸収し、富山県の交流人口拡大に貢献する所存でございます。それでは、詳細につきまして担当よりご説明を申し上げます。

(株式会社JTBより資料2に基づき説明)

【西村委員長】

はい、ありがとうございました。

質問もあるかと思いますが、後のご発言の機会に質問いただければと思います。

それでは続きまして「議事2 一般開放・旅行商品化に向けた取組み状況」につきまして、まずは県における取組み状況についてお願いしたいと思います。

(事務局より資料3に基づき説明)

【西村委員長】

ありがとうございます。それでは、続きまして黒部市における宇奈月温泉等の魅力創出・受入体制整備の取組み状況につきまして、黒部市より説明をお願いしたいと思います。

(黒部市より資料4に基づき説明)

【西村委員長】

ありがとうございました。続きまして関西電力から、一般開放・旅行商品化の前提となります、黒部ルートの安全対策工事の状況につきまして資料をいただいておりますので、本日も出席の藤井委員の方からご説明をお願いしたいと思います。

【藤井委員】

私から、A4横のタイトルが「宇奈月黒部ルート安全対策工事」の資料でご説明いたします。

ご覧いただいている左上の方に概要としております。ご案内のとおり、トロッコ電車の終着駅であります樺平から黒部ダムの間、全長約18kmの坑道トンネルの部分が黒部ルートでございます。左に「工事概要」と書いてありますように、4つの安全対策を施します。例えば、①上部軌道トンネルの安全対策につきましては、全長約6.5kmのトンネル部分に、モルタルの吹付けですとか、ロックボルトの補強を行うことによって、落盤の防止対策を行います。②の上部軌道の避難箇所につきましては、横坑を利用しまして避難通路の照明ですとか案内板等の設置を行います。③の上部軌道の車両更新につきましては、乗られた方もいらっしゃると思いますが、入り口部分が1か所しかございません。万が一の時の避難のために、やはり両サイドに避難することが必要ということで、非常脱出口の設置ですとか、自動列車停止装置の設置という、最新の安全装置を施すように考えておりまして、全車両を更新する予定にしております。④としまして、黒部トンネルの安全対策としまして、トンネル背面のモルタル注入を行います。

こういった4つの工事につきまして、右上の方に「2.工事工程」と示しております。富山県さんとの協定を2018年10月17日に行いましたが、その協定締結後、詳細設計ですとか、必要な法定手続き等を経て、例えば順番にいきますと①の上部軌道トンネルにつきましては、2019年10月に現地着手しております。避難箇所につきましては、これらの工事が終わった後の2022年頃を予定しております。車両の更新につきましては、現在詳細設計を行っている最中でありまして、設計終了後制作、入れ替えを行なう予定になっております。黒部トンネルの対策につきましては、2020年の8月に現地着手しております。ご覧いただいているように、後から説明しますが現在は一部中断ということで、1月31日まで、新型コロナウイルスの関係もありまして、現在のところは中断しているということでございます。

右下に「3.工事状況」を示しております。1つ目に皆さんご案内のとおり、大変厳しい自然環境の下、最近ここ1年くらいは新型コロナウイルスの感染症の予防対策として、マスク、換気、宿舎ですとか、色々な消毒ですとか、そういったところに本当に注意を払いながら、この冬期間も含めてずっと夜間工事になりますけれども、現場の方で頑張ってください。

2つ目、既設のモルタルの吹付けを点検しながら工事をやっているわけでございますけれども、やはり劣化等も確認されているところもありまして、全体の施工量としては1.5倍

ほど増加しております。

3つ目に新型コロナウイルス感染症の影響によりと書いてありますが、先ほど工事工程の赤字部分のところで説明いたしましたけれど、例えば①の上部軌道におきましては、ゴールデンウィーク頃に緊急事態宣言が発出され、全国的にも建設工事等が全体的に中断になりました。そういった工事を中断してその後着手はしておりますが、12月1日からまた中断をしております。これは黒部川第四発電所に、法定に基づく設備の取替工事等がございまして、作業員の宿舎を確保するために、黒部奥山の作業員宿舎というのは大変限られております。そういった中で新型コロナウイルス感染症の関係もありまして、大部屋にたくさんの方がお泊りいただくのは非常に困難でありますので、1人部屋を確保しようとした時に、こういった法定工事を優先せざるを得ないということで、安全対策工事の方は現在中断を余儀なくされているところであります。

こういった厳しい状況でございますけれども、工期内の竣工に向けまして関係者は日々調整を行いながら、また工事関係者の命と健康を守るために細心の注意を払いながら、引き続き安全最優先で工事を進めていきたいと考えております。

2枚目にまいりますと、それぞれの状況の写真をお示ししております。左上が上部軌道トンネルのモルタル吹付作業の状況でございます。黄色い雨合羽のようなものを着た作業員の方が、モルタルを岩面に吹き付けている状況でございます。モルタルというのは、砂とセメントをペースト状にしたものでそれを吹き付けて、大体平米にしますと3万6,000平米ということで、ちょっと分かりにくいですが、例えばテニスコートだと140面くらいだとか、朝乃山の土俵だと2,215面くらいですが、そういった大変膨大な量のモルタルを吹付けます。右上を見て頂きますと、上部軌道のトンネルのロックボルトを打ちます。ロックボルトを埋めるための穴を掘っているところでございます。ロックボルトというのは、長さは大体1.5メートルくらい、太さでいうと2センチくらいありますが、そうした鉄の棒を全体で約8,700本、非常に多くのロックボルトを打ちます。それで岩盤の補強を行うということです。

左下の写真が、黒部トンネルの背面モルタル注入作業でございます。黒部トンネルというのは、戦前と違いまして黒四建設の時のトンネルですので、コンクリートを使っている。ご覧いただいたとおり、そんなに大きなトンネルじゃないように見えますけれど、調査したところ、背面に空洞があることが判明し、この奥の空洞部にモルタルを注入しております。

最後の右下の写真でございます。ご覧のとおり富山県の地図、右の方に立山連峰がありますけれど、その裏側に黒部峡谷があり、真ん中の写真、もうすでにホワイトアウトして見にくいんですけど、先日の1月8日の大寒波の時の写真でございます。人見平と言いまして、行かれた方もご存知の方も多と思いますけれど、そういったV字峡の中に狭い平地を確保しまして、宿舎がそこにあつて、そこに寝泊まりしていただいている。現在の積雪は250センチくらいあるということです。

繰り返しになりますけれども、富山県内は先般記録的な豪雪ということで見舞われたとこ

ろですけど、我々がいる平野部ではどうしてもなかなか向こうの環境というのは想像しにくいわけでございますけれど、昔から富山県民の方は立山連峰が大好きですけど、残念ながら今日は曇って見えておりませんが、その立山連峰の裏では、こういった厳しい自然環境の中で作業員さんが頑張っていただいております。食事はもちろんですが通信手段の確保ですとか、もちろん雪崩の危険性もある。更には新型コロナウイルス感染症対策の中どうやって作業していただくのか、本当に色々注意しなければいけないことがたくさんあります。そういった中で、工事の遅れを懸念するお声があるのも承知しております。現時点で何か月遅れているとか何か月進んでいるとか、そういったところを申し上げる段階ではないと思っております、そういった進行状況につきましては、こういった場でしっかりと説明させていただきますし、また富山県さんをはじめとする関係者の方々にも緊密に連携しながら、引き続き作業員の安全と健康を最優先に工事を進めてまいりたいと思っております。

【西村委員長】

ありがとうございました。それではここまで旅行商品の運営主体の選定と、各機関の今年度の取組み状況について報告いただきましたけれども、ここで特に旅行商品の企画の方向性、「資料2」ですね、これを中心に委員の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。

こちらからご指名させていただきますけれど、まずは全国的、全県的な活動をされている委員からご意見をいただき、次に地元の関係の委員の順番で発言いただこうと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、まず旅行業の観点からJATAの坂井賢一委員、いかがでしょうか。

【坂井賢一委員】

はい。ご指名をいただきましたJATAの坂井でございます。資料を見せていただいて、資料2の「基本方針」がございます。ここに書かれている1番のところ。「価値がわかる」とありますけれどこの部分が、我々が旅行商品を造成するにあたって、商品は作ります、パンフレットも作ります、店頭に並べます。でも、なかなか売れないことってあるんですよ。それはなぜかという、お客さまにその商品を選んでもらう理由がはっきりしていないと、なかなかいくらプロモーションしても、販売につながらない。今回「価値が分かる」というところが、5W1Hで言うところの「Why」ですね。なぜ、この宇奈月黒部ルートというところを選んで来ていただくのかというところをハッキリさせていかないと、なかなかその後の消費、誰がどこでいつ、いくらでどのように売っていくかというところにブレが生じてきますので、正直この価値が分かるというところが、どのように伝えて行くのか。何を価値としていくのかというところが難しいとは思いますが、ただ、それをやっていかなければいけない。たくさんのお見識をお持ちの方がここにいらっしゃるわけで、なおかつJTBSさんが今日来ておられるので、そこは考えておられると思っておりますけれども、こちら辺のところ

を深掘りしていく必要と、あと「2」にある、地域が愛着を持った旅行商品とするため県民に紹介とありますけれども、今関心が高まっている「マイクロツーリズム」というところの、地元を観光するということであれば、まずは富山県民に広くこの価値を分かっていたくためのプロモーションから始めていくのも、ひとつの方法かなというふうには感じております。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。何が価値かというところを深掘りすべきだと。

全員の委員の方が発言していただいた後、またそれぞれの先ほどの資料の説明者の方で、補足がありましたらやっていただければと思います。それでは続きまして観光及び交通事業者の立場から、J R東日本の日野委員いかがでしょうか。

【日野委員】

はい、ありがとうございます。J R東日本の日野でございます。今回初めて会議に参加ということで、お願いいたします。

時期としては、まだまだと言ったらおかしいんですけど、2024年度ということで、先のことを話してもあれですけど、コロナの影響もある程度一段落した状況であるということと、もちろんウィズコロナということもございますけれども、そういうことを含め考えていきたいと思っております。そういった点で、この素晴らしい自然ということで本当に日本全国、また海外からも幅広くお客さまを集めるということが可能な観光資源であるなということを感じております。

先ほどから、ここの「基本方針」のところでもございましたけれども、ターゲットの部分ですね。こういった、特に40代後半以降シニアの方を中心にとということもございますけれども、例えばどのエリアからお客さまを集めてくるのかということと、あとは商品企画例のところでもございますけれども、こういったコース取りでお客さんをお連れするのかといったことを、今後詳しく考えられるところだと思いますけれども、ぜひそのお客さまをお連れする場所、そして交通ルート、そういったものを今後色々考えて、お客さまをより効果的にご案内できるような形で、商品造成ができてきたらと考えております。私からは以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。エリアとコース取りをこれから議論する段階になったと。続きまして同じく交通事業者の立場から、ANAの宮本委員お願いします。

【宮本委員】

はい。ANAの宮本です。商品の内容につきましては、ちょうどこれからJTBさんの方で詰めていかれるのですけれども、黒部ルートにつきましては、本当に素晴らしい観光素材

だなどと思います。ただ、残念ながら私も富山に来るまで全くよく知りませんでした。おそらく日本国内、海外も含めてですね、せっかくの素晴らしい観光資源を、この3年間をかけてどうやって計画的にプロモーションしていくかということが大事なんだろうと。この黒部ルートだけではなくて、この黒部ルートという素晴らしい観光資源を使って富山県全体のPRをして。この黒部ルート自体は、最大で年間1万人が限度ですよ。それ以外にもたくさんの方に富山に来てもらえる、そのためのPRの大きな素材として有効に、世界も含めてPRして、将来にわたって全体として富山県の観光を増やしていくというふうに、この黒部ルートの開放というのを使っていくというような視点でプロモーションをしていくのが大事かなと思います。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。ここに来る人だけじゃなくて、富山県全体にうまく波及するような戦略というのが必要なんじゃないかと。

それでは、続きまして県内に拠点を置く旅行業の観点から、富山県旅行業協会の永守委員。

【永守委員】

富山県旅行業協会の永守でございます。私はこの黒部ルートのオープンに関しては、非常に期待をしております。県民である我々が期待する以上に、近県の方はもとより日本中の皆さんがこのなかなか観光できない山岳観光というものに期待をされていることと思っております。

ただ、年間の観光可能な人員が1万人と非常に限定をされています。富山県民の1%程度にしかならないということ考えると、どこにどう売るか、県民に売るとか県民以外の方に売るとか、あるいは県民と県民以外の方を折衷して売っていくのかなどをしっかりと決めたい。例えば参加される方を募集しないと、皆さんの要望に応えきれない状況になってしまいます。従って、販売先や販売方法の方向性をきちんと決めていただければ、売る側の我々としては大変ありがたいと思います。

あと、気になるのが天候です。ゲリラ豪雨や台風など異常な気象状況です。素晴らしい風景は天候が良いのが前提であり、考えられない天候になった時は、催行中止もありうるのではないのでしょうか。その中止を決定するときにはどれくらい前に告知するのか、どれくらい前に中止を決めるのかなど、催行できない状況も考えて商品造成をお願いしたいとも思います。

来ていただくお客様に極力ご迷惑をお掛けせず、かつ催行中止であっても黒部ルートが体感できる工夫を基本的に考えて商品を造成ください。

本年度令和3年から5年まで商品造成に入られるのですが、その商品の数や種類も多数あるわけではないと思われしますので、「売り方」や「前述した方向性」をきっちりと決めて、企画提案をお願いします。

当協会に加盟している 94 社は販売する努力は惜しみなくさせていただけると思います。どうか素晴らしい商品企画を宜しくお願い致します。

【西村委員長】

ありがとうございます。県民以外の方に売るのであれば、明解なコンセプトがいるだろうと。それから、もし気候によって中止の時には、そういう対策というものを考えておく必要があると。それでは次に県内宿泊事業者の観点から、富山県ホテル旅館生活衛生同業組合の坂井彦就委員。

【坂井彦就委員】

坂井でございます。大変我々期待するところではありますけれども、実は年間 1 万人というのが、多分結構少ないんだろうなと思うんですけれども、これですと相当高額な商品になるのかなというのは想定されますし。それから、ちょっとひとつお聞きしたいのは、年間 1 万人が何年間の計画で増やしていくのかどうなのか。それが非常に気になるところであります、もし何かわかるのであれば、計画があれば教えていただければと思います。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。質問はあとでまとめてお答えしていただければと思います。それでは続きまして、富山県の地域DMOの会長であります、高木委員お願いしたいと思います。

【高木委員】

まずもって、関電さんには色々な困難を乗り越えて、着々と安全対策をしていただいていることに、深くお礼を申し上げたいと思います。さて、ほぼほぼメニューはそろってきているのですが、私の方からは 2～3 申し上げたいと思います。

まず一番申し上げたいのは県の方でございまして、PR映像とかホームページをやりませんが、それをどうやって見ていただけるかということについて何も書いてないんですね。いまだに良いものだから見てよ、という意識があるような気がします。どうPRするか、そういうものも 1 項目つけて、しっかり国内外にPRしていく必要があるだろうと思います。

2 点目は、富山は今日もこんな曇天で、こういう日が普通です。私はいつも言っているんですが、表日本並みの日照率があれば何も宣伝しなくても「日本のスイス」になると。それで、今は良いものがあります。例えばGoogleで、バーチャルで見える。そういうものも整備してこの映像も活かしながら、本当は晴れなら見えるよというようなものをいっぱい置いていく。こういうようなところも、やはり時間とお金がかかりますので、検討していく必要があるのかなと思っております。

それから3点目は、黒部市さんの取り組みであります。大変良いと思っております。まちなかの活性化と、抱き合わせてやっていくということでもあります。今般観光庁の方からも、こうした環境整備に予算がつきました。去年の暮れに国交大臣がおいでになって私どもは申し上げていたんですが、すぐ補正で予算がつきましたので、そういうものを活用しながら、整備していかないといけないと思います。泊まる場合は、そこそこ整備してもらわなければいけないという部分もあります。やはり、これだけ払っても来たかいがあったと納得感が大切です。いまだにずっと待ち行列であるJR九州のななつ星みたいなそういう商品になれたらいいなど。入場者の数を増やすとかそういう話は今後、その実績を見た上でまた関電さんとか色々な関係と話をするというので、まずもって来もしないうちから増やすということは、まずちょっとないだろうということ。これをプラチナにするためにも、まちなかの整備。ですから、黒部口だけではなくて立山口もそうですね。入口をきちんとしておかないと、後から山田さんもお話されると思いますが、スイスなんかと比べて見劣りがするというので、そういうものに対して県も本腰を入れていただきたいと思います。

入り口を、旅館も駅も含めて、きれいにしてお迎えする。そうすれば準備期間として4年や5年は、あつという間だと思っております。以上3点です。

【西村委員長】

ありがとうございます。来てもらい方、VRで見せる見せ方。

では、ここからは地元からの視点でご発言をいただきたいと思います。まず、黒部ルートを管理されていらっしゃる関電。先ほどもご発言いただきましたけれど、藤井委員の方から。

【藤井委員】

はい。簡単に2点申し上げたいと思います。以前から申し上げていることの繰り返しになると思うんですけど、1点目、旅行商品企画を考えていただく上での、例えばJT Bさんの資料の中の「アドベンチャーツーリズム」という言葉の捉え方と言いますか、印象についてなんですけれども。本当にこれは繰り返し同じことを言っているんですけども、ご存じのとおり過去の工事におきまして、当時大変多くの方が犠牲になられたということは、皆さんご存知のとおりだと思いますし、現在もご遺族の方がお参りに来ていらっしゃるようなところであります。従いまして、先ほどのJT Bさんからのご説明にも先人への敬意という言葉がございましたけれども、企画ですとかネーミングを考える上においては、「ドキドキハラハラ」とかそういった言葉よりも、大自然への畏敬の念だとか、また亡くなられた方への尊敬の念、または苦難に立ち向かわれた先人への敬意と言いますか、そういったところも、ぜひともお忘れになることなく、そのような場としてふさわしいスタイルに、心がけていただきたいと考えております。

2点目は、ガイドの充実。これは本当に皆さまがおっしゃるとおり、私も重要性は認識す

る一方で、ガイドの人材の確保ですとか養成の困難性、これも皆さん本当にご認識のとおりだと思っております。そのガイドが、今資料の中でご説明されていましてとおり、宇奈月の街の中、トロッコ列車の中、私どものルートの中、あとは立山黒部アルペンルートの中と4か所くらい。説明内容も性格も多岐にわたる中で、お一人の方全部通して担っていただくのか、それとも分担してやるのか。もう少し整理をする必要があるんじゃないかなと思っております。一方で、機械化するとかそういったことによって合理化できることもあると思えますし、いずれにしても説明ツールのハードとか人材のソフトというのは、お金もそうですが時間もかかると思えます。関係する皆さまとこの辺りはよく意思統一を図りながら、効率的に進めたいと思っております。以上2点でございます。

【西村委員長】

ありがとうございます。電源開発とガイドの連携の2点でのお話。

では続きまして、黒部ルートと接続します立山黒部貫光の見角委員、お願いいたします。

【見角委員】

はい。立山黒部貫光の見角です。黒部ルートと、私どものアルペンルートですけれども、この2つがつながると富山県の二大観光ルートを一挙に占めてしまうわけで、非常にそういう意味では大きなインパクトがあると思っております。先ほどもちょっとお話ができましたけれど、やはり商品化につきまして明確な方向性が必要かなと思っておりますので、その辺りを少し要望しようと思ひまして、まずはダイヤ。目的地はどこにするのか、そのところをはっきりさせた方が良いのかなと思ひます。

それから、黒部の入口もそうですけど、立山の入口もやはり整備しなければならないというふうに感じております。まだまだ宇奈月にしろ、立山にしろ、きれいな状況じゃないと思ひますので、まだ年数がありますのでその間にきちんと整備していきたいと思ひます。

それから、もしJTBさんの方で商品化の中でプロモーションビデオを作られるのであれば、そういったものも私どものホームページとかを通して流していきたいと思ひますし、それからアルペンルート内の各駅にデジタルサイネージがございますので、そのサイネージも利用して、今度また来る時には黒部ルートへ行きたいと思われるような商品の流し方ができれば良いのかなというふうに思ひます。

いずれにしても、天候の悪い日も正直言っているとされます。アルペンルートに来て全く外も見えないような日もたくさんあるので、そういった日のために悪天候のための対応策みたいなものも含めて検討していただければ、非常にありがたいかなと思ひます。いずれにしても、まだ2～3年先と言ひしてもあまり日もありませんので、今のうちからそういったものに対しておくことは、非常に大事なのかなと思ひます。

インバウンドにつきましては、まだ非常に暗い状態にありますけれど、いずれ必ずインバウンドも出てくると思ひているので、インバウンド対応にしても頑張っているのです、PRは

ホームページの各外国語対応のところでは我々もしようと思っております。

それから、ガイドにつきましては、どうしても黒部ルートとアルペンルートがつながるような商品になろうかなと思いますので、一人の方が丸一日かかるとは思います、そういったガイドも多分大変だと思いますので、切り離して考えた方が良いのかなと思ったりもしています。そのために毎日のようにガイドの養成と言いますか、派遣というのは、私どもにとっては非常に厳しいわけですし、先ほどもお話がありましたが、そういった機械化というか、説明の音声ガイド案内みたいなものが、今後取り入れることができれば非常にありがたいかなと思っております。以上です。

【西村委員長】

はい。天候対応、商品の方向性やネットの対応、ガイドは少し機械等をうまく利用できるようにご提案をいただきました。

それでは続きまして、地元の交通事業者の観点から、富山地方鉄道の辻川委員。

【辻川委員】

辻川でございます。本日 JTB さんの旅行商品の企画の方向性、今色々議論させていただいていますが、JTB さんの方で今旅行商品を作成されているということとともに、黒部市さんの方でも黒部峡谷沿線の見どころの発掘などをされているということですので、どんな関係になるのかちょっと見えてこないんですけど、せっかくやられるんですからぜひ連携して、より魅力のある、お互いに連携しながら魅力のある商品としてつながっていったら良いのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、今ほど高木さんの方から玄関先のことを指摘されまして、私どもも耳が痛いんですけど、やはり整備しながら。安全性というのも勿論ですが、快適にそこを旅行できるというのが大切だろうと思いますので、自然を大切にしながら、今までの遺産も大切にしながら、やはり快適性というものも、玄関先もそうですし途中の区間も大切だろうと思いますので、休憩場所だとかトイレの場所だとか、そういうものもぜひ配慮していく必要があると思っております。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。市と JTB の連携と、快適性も整備するというお話でした。

それでは地元宇奈月の、宇奈月温泉旅館協同組合の濱田委員。

【濱田委員】

宇奈月温泉旅館協同組合の濱田でございます。今色々委員の皆さま方から、大変貴重なご意見をいただいております。そういうことを考えますと、玄関口である宇奈月温泉ですから大変責任、重責をしっかりとこれを果たさなければならぬと思っております。

私は常々、某放送局でやっている「ブラタモリ」が大変好きでありまして。この関電ルートは今までの物見遊山的な商品ではなくて、電力というのは近代日本の礎でありますから、そういった歴史、そういったものがしっかりと学べて、そして感動できるような商品でありたい。従って数ではなくて、やはり質の高い商品にしなければいけないのではないかなと、こういうふうに思っております。幸い今、宇奈月温泉の麓の方では、先ほどご紹介がありましたように「ハートの台地」というガイドの会がスタートしておりまして、月1回勉強会を重ねております。この非常に晴天の時はいいんですが、雨が降ったりみぞれであったり、色々な気象条件が移り変わってくると思います。そういう時にやはり、このガイドの説明、あるいはいろんな歴史とかそういったものをご案内する、こういった力が非常にやはり必要になってくるんじゃないかなと思います。

やはりこの関電ルートのほとんどがトンネルでありまして、景色は空中しか見えなくなります。そういった所に、先人達が大自然に挑戦をして、そして人工の構築物を造り上げて、文明の血液である電力を作り出して。こういったところを見ていただけるような、そういった商品になれば良いなと思っております。

先ほど高木先生の方からですね、玄関口を良くしなければいけないという、大変ありがたいお言葉をいただきまして、これは今、宇奈月温泉は本当に、GoToの停止あるいは11都府県で出ております緊急事態宣言、これによって大変疲弊をしております。昨日あたりでも営業している旅館は、わずか2軒だけでありました。こういった状況が、これからずっと続いていくというわけでありまして。従って、今宇奈月温泉には恵まれた温泉、あるいは恵まれた食材、恵まれた自然、そして恵まれた人財。そういったものが今そろっているわけでありまして、それをしっかりと各旅館の得意分野、強みをしっかりと打ち出して、それぞれの旅館が価格競争に陥らない、本当に内容で勝負するような形で今日々努力しているわけがあります。

今やはり、このコロナ禍におきまして求められている宿泊施設というのはまず安心・安全が第一であります。これを達するためにも、やはり三密を避ける。例えば露天風呂付きの部屋であったり、あるいは貸し切り風呂であったり。そういったものが求められているわけがあります。今、行政の方におかれましては、何とか旅館の方を助けなければならないということで、様々な支援をいただいているわけでありまして、これから本当にいよいよひどくなってくるんじゃないかなと。そういった中において、ぜひともそういった施設を改装したり、あるいは清潔感を高めるリニューアルとか、そういったものの支援をぜひこの際、考えていただければ大変ありがたいのであります。

そういったことで、玄関口である宇奈月温泉の責任は大変重いわけでありまして、その辺をしっかりと捉えて、お客さまのご満足をいただけるように、頑張っていきたいと思っております。以上です。

【西村委員長】

それでは、黒部峡谷鉄道の鈴木委員。

【鈴木委員】

はい、黒部峡谷鉄道でございます。日頃から富山県、黒部市の皆さま他、関係者の方々にはお世話になりまして、大変ありがとうございます。

私の方からはちょっと細かい話にもなるかもしれませんが、2点ばかりお話させていただけるというふうに思います。1点目はガイドさんの件でございますけれど、本日の皆さんの議論を拝見させていただいておりますと、やはりガイドさんの存在というのが大きなポイントになってくるかなと思っております。皆さんのご意見の中でも、様々な調整をしていきたいと思います。エリアやジャンルの話もありますし、どなたが担うのかというお話も、地元の方からもガイド組織を編成されていますし、色々あるんじゃないかなと思いますけれども、実は手前ども、車両の中ですね、自動音声のガイドを流しております。室井滋さんにナレーションをお願いしておるんですけども、これが実は車両の中に組み込まれた仕組みのため、例えば有人のガイドさんが付いた車両だけ放送を切りますとか、そういうことがなかなかできない仕組みになっておりまして、もしそういうニーズがある場合、全体の中の調整も含めてある場合は、ちょっと早めにご相談いただけたらなど。場合によっては費用と時間がかかる場合もありますので、よろしくお願ひしたいというのが1点目でございます。

2点目ですけれども、先ほどから黒部峡谷沿いの名所についても、色々と付加価値を見直したり高めていったりして、みんなに来てもらって喜んでいただくという話がございますけれど、実はトロッコの終点であります樺平の駅から徒歩で少し行きますと、先ほどご紹介もありました、国の特別名勝かつ特別天然記念物に指定されている、「猿飛峡」という非常に景観に優れた場所がございますけれど、残念ながら2年前から落石とかで、たどり着けない状態が続いております。我々としてもパンフレットに「きれいなところがありますよ」ということでPRさせていただいているんですけど、2シーズン連続してご質問いただいても「行けませんね」という話になると、なかなか厳しいものがございまして。こちら辺、いかがなものかなと思っておりますけれども、ここも本日ご意見がありましたように、黒部峡谷というと一行政だけじゃなくて、国も関係あるし、県も関係あるし、市も関係あるしというような構造になっておりましてですね。ここは、せつかくこういう場でルート開発についても盛り上げていこうという話でございますので、国と県の皆さんと黒部市の皆さんで、ぜひ綿密に連携いただいて、こういうエリアをどうしていったらスムーズに修繕できるのかな、みたいな話もしていただいた上で、様々な整備を行っていただければ。まだまだルート開放までには、もうちょっと時間があるんですけど、ここは十分対処、対応していただけるのかなと思っておりますので、差し出がましいとは存じますが、ぜひその点をよろしくお願ひしたいと思います。以上2点でございます。

【西村委員長】

ありがとうございました。車両の音声ガイドの点と後はアクセスの点。

それでは地元宇奈月の住民のお立場から、宇奈月温泉自治振興会の河田委員。

【河田委員】

宇奈月温泉の河田でございます。先ほど黒部市の方から、宇奈月温泉との協力体制について説明があったので、具体的にはこういう形で我々は進めていきたいと思っておりますが、若干補足させていただきたいと思えます。

先ほどありましたように宇奈月温泉の開湯 100 年というのは、2年後の 2023 年に迎えるわけであります。宇奈月温泉の 100 年と黒部ルート一般開放というのを、我々としては一体的にとらえて、ここで宇奈月の新たなる魅力を創出していく、新たな時代を作っていくということを考えながら、整備していかなければならないなと思っております。それに向かって2年後に迫りましたので、宇奈月温泉開湯 100 年については、まだ準備をそれほどしているわけではないので、近いうちに実務レベルを含めた形で打ち合わせというか、検討会を進めていきたいと思っております。

その中で何を中心にしていくのかということについては、先ほど説明がありましたが、ガイドの会に関していえば、単に1年、本年度やっているだけではなくて、これから色々と開湯に向けて様々な研修を積み重ねるということで、来年度以降も研修会等を行いながら質の高いガイドを養成していきたいと思っております。何よりもこのガイドは有償のガイドであるということですので、来ていただいた方に十分に受け入れていただけるようなガイドを付けていかなければならないなと思っております。

あわせて宇奈月温泉の魅力というのは、大自然であったり温泉であったりということですが、それに加えて先ほどもございましたが、まちなかの整備というか、そういうことが極めて大事になってきているだろうと思っております。先ほど高木委員からもありましたけれど、空き家だとか空き地だとかいうこと、あるいは入り口に近い所の整備だとかみたいなことも含めて、これから積極的に取り組んでいかなければいけないと思っております。そういう形で景観整備をしていくと同時に、宇奈月温泉を歩きながら散策できるような形で、道路整備という形で道路についても整備させていただきたいと思っております。入り口にある橋の改修というものをお願いしているということで、これをぜひとも黒部ルート開放の時点までには、何とかしたいと思っているところであります。

そういう形で、まちなかの整備をしながら宇奈月温泉の魅力をどう作っていくかということだろうと思うんですが、その中でやはり温泉と大自然、宇奈月温泉が積み重ねてきた歴史とか文化というものを、いかに活用していくのかと思っているわけでありまして。歴史についてはここで詳しく述べるわけにはいきませんが、100年あまり前に、高峰謙吉による電源開発構想ということは伝えてほしい。そして、それがのちに黒部第三発電所、高熱隧道の作った黒部第三発電所。これが世紀の工事と言われた黒四発電所ということで、今日の黒部ル

ートというものができるわけですが、そういうような歴史の積み重ねというものが黒部にあるということ。それから、宇奈月温泉はそれに伴ってできたということですね。ちょうど100年前にその工事を進めていた山田胖という技士が、その時から黒部に鉄道を走らせて、上流まで向かって行って、やがて富山から立山の方に向かっていく電車、交通ルートが一緒になればひとつになるということ、100年前に構想を描いていたということが今実現できるという、歴史的なストーリー性があるということはやはり大事にしていきたいと思っています。

文化を言えばこの宇奈月温泉は、いろんな方々が来ているというのを大事にしながら、新たな文化を創生していきたい。例えばこの資料の中にありましたが、セレネを活用したコンサートなどをやっていますが、セレネの中には平山郁夫さんの現地の作品が展示されているということ。それから、最近では音楽で言うと、東京芸大の澤学長のコンサートが定期的開催されている。それから、シアターオリムピックスの後継という形で舞台芸術のイベントもやる。というようなことで、日本を代表するようなものやることができるようになってきていることも、魅力にしていけたら良いのかなと思っています。

いずれにしても、宇奈月温泉の魅力を作る、あるいは再発見するというのは、全体で取り組んでいかなければならない課題だろうと思っていますので、そういう点では各団体と合わせて一生懸命取り組んでいきたいというふうに思っているところであります。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。各団体にもお願いしたいと思います。

それでは地元のDMOであります、黒部・宇奈月温泉観光局の川端委員ですね。

【川端委員】

私の方からは、先ほど黒部市からの説明にもございました、一般開放に向けた代表者会議です。令和元年から進めておりまして、ワークショップを進めながら色々検討をしております。先ほど辻川委員さんに言っていただきましたが、まさに今やっている会議の方向性が正しいのかどうかというのが、なかなか見出しづらい現状にあります。といいますのは、JTBさんが今回運営主体といった形で商品化を進められるわけですが、大手旅行会社さんが考えておられる商品化の部分と、地元の観光業者もしくは関連業者さんとかも含めた、地元での成果を求めていこうという、我々の考える商品化の部分と本当に合致しているのかというのは、いつも色々な話をしながらも疑問に感じながら進めている所でございます。できれば早い段階ですり合わせの機会を頂くか、もしくは中に入ってもらっても良いと思います。一緒にやっていただけるような形がとれないかなと思います。

今日の説明の中にも、黒部市内や新川地区を巡っていただくという案もあるとの発表がありました。本当にそれが今回の黒部ルート一般開放と関連付けを見つけられるのかというと、なかなか難しい点もあるのかなと思いますので、ぜひ早い段階で、そういったすり

合わせをするような機会を頂ければと思います。

また、これも先ほど言われましたが、県民枠というところが非常に重要であると考えます。1便で20～30人という限定的な商品ですので、そういう中で大手さんが販売されると20～30人の枠はあっという間に多分埋まってしまう事が予想されます。この説明の中には地元の旅行会社さんにも販売していただく余地があるそうですが、本当に地元に戻ってくるのかなど危惧をするわけです。先ほど話がありましたように、50年以上前から県民が待ち望んでいるルート開放でございますので、ぜひ県民枠というのを明確にさせていただきたい。例えば、曜日でも良いです。この曜日は県民枠です、といった明確な部分が示されればいいのかなと思います。以上でございます。

【西村委員長】

はい、ありがとうございます。県民枠の工夫ということです。

それでは、JR西日本の前田委員が少し遅れてこられましたので、ご発言をしていただければと思います。

【前田委員】

JR西日本の前田でございます。定時から少し遅れまして申し訳ありません。

この資料を拝見しまして、JT Bさんの提案、それから最後の黒部ルート一般開放に向けた宇奈月温泉の魅力創出まで、非常によく考えられたプランだなというふうに感じました。

実際に旅行なさる方の観点に立って考えてみると、それこそ黒部宇奈月温泉駅に降り立ってから宿泊をし、そしてルートを回られる。この一連のそれぞれの場面、シーンで要するにオンリーワンといいますか、そのような魅力をいかに演出して楽しんでいただくかというようなことが、非常に大事なんじゃないかなと感じていたんですけども、まさにそのようなことを、それぞれのシーンでお考えいただいているということではないかなと感じました。

先ほどから、すいません、遅刻したものですから、皆さま方全員の発言をおうかがいできているわけではないんですけど、発言をお聞かせいただくと、それぞれのお立場で本当に熱心にこのプランを踏まえて、その素材を磨き上げようという熱意をひしひしと感じました。この手の取組みをやる時に、プランは立派だけど、なかなか実際にその仕事に従事なさっている方々の熱意までつながらなくて、絵に描いた餅みたいになることも方々で起こっているということも、あるんじゃないかなと思っているんですけど、そういう意味では、こんなプランをベースにして、何よりも県民の方、あるいは地域の皆さま方がその気になって、一生懸命これを磨き上げていく、そんなようなことが大事かなと感じた次第です。私どもの立場で何か協力できることがあれば、またおっしゃっていただければと思います。

【西村委員長】

ありがとうございます。それでは、ここまでお聞きになって、県外から来られている有識者の方からコメントをいただきたいと思います。まず、桜美林大学の渡辺委員。

【渡辺委員】

どうもありがとうございました。この資料2の3ページのスケジュールとか、今後の課題とか、この辺をベースに少しだけお話ししようと思います。多分私の後、山田先生がさらに突っ込んだ意見をなさると思います。

この旅行商品の課題のところの1番で、旅行商品の造成という言葉が出てきます。そこで、個人の観光旅行に絞ってお話しします。今回の黒部ルートでできてくる商品は、例えばJT Bさんが作っていらっしゃる立山黒部のパンフレットの中の、一商品になります。その中の一新商品になるということだと思います。ですので、その既存の立山黒部アルペンルートパンフレットというのは、日本の観光客の方からはある程度認知された旅行商品のひとつであって、その中に新しい商品が加わるというのが、多分3年後に起きることになります。その際にいくつか留意しないとイケない事があると思います。

ちなみに新商品に加わるというのは、いい例じゃないかもしれませんが、「ユニバーサルスタジオ」という認知された観光資源があって、その中にハリー・ポッターか何か、新しい所ができました。これと似た状況が起きることになります。一方、できる商品は、この中で例えば「満足度の高い旅行商品の造成」「ターゲットに応じた」とありますけれど、行程、いわゆるルーティングは、そんなにバリエーションはありません。ですからその中で、どういう変化がつけられるか。ガイドさんが重要なのは全くその通りです。その中でバリエーションがつけられるとしたら、宿であったり、あるいは食事であったり、そういうところでのバリエーションが考えられる。ルーティングは一定です。そのような状況が発生します。

こういうような状況で、ひとつのパンフレット、これから先、紙のパンフレットはなくなるかもしれませんが、紙のパンフレットの中で既存の立山黒部アルペンルートの通り抜け商品の中に今回の新しい黒部ルート、やがてネーミングが決まると思いますけれど、掲載されることになります。そして、黒部ルートの方は何と言っても分母が1万人と決まっていますから、そういう意味では仕事の効率性を高くしなきゃいけない。そこで、この新商品は当然にも高く売らなくてはいけない。ところで、経営学で「価格差別」という考え方があります。ここで新商品に付ける価格というのは、既存の立山黒部アルペンルートの商品に影響が出るということなんです。ですから、その辺を考えながら、商品の内容にそんなに差が付けられないからこそ、差がつけられないというのは語弊がありますが、だからこそプライズというものが非常に微妙なところだなと思います。

もうひとつ。これは新商品だからこそ、当然ながらプロモーションが大事です。プロモーションに関してひとつ言っておかなければならないことがあります。プロモーションは、ターゲットに応じたプロモーションを実施しなければなりません。内容もチャネルもです。例えばSNSという言葉が出てきていますが、SNSというのはここで想定されている

ターゲットは40、50、60台でしたか、その人たちは最近はもちろん使いますけれど、やはりチャンネルとターゲットのバランスがあります。そういうふうにと考えると、この中で「在庫管理」というのが緑色の棒の中の、上から3つになっているんですけど、在庫管理というのは1万人をどのように分配するかです。県民枠という話がありました。全くそのとおり大事なんですね。インバウンドという話もありました。なので、それを例えばJTBさんがお売りになる、あるいは提携する旅行会社を通じてお売りになる、あるいはインバウンドにお売りになる、あるいはどうでしょうか、楽天とかエキスペディアとかOTAにも売らなうでしょう。

それぞれのターゲットによって、売り方や宣伝の仕方が違ってきますよね。極端な話をすると、例えば20代のマーケットに訴えるプロモーションと70代とは当然違います。これは基本的な話です。ですので、在庫管理の計画を早めに前倒して、仮でも良いから決めないと、プロモーションの話がスタートできないと思います。

これはなかなか難しいことですが、とはいえ、もう3年くらいになったわけですよね。仮に、この1万人をどう分割していくのか、どう割り当てていくのかという案を立てて、そこからプロモーションが考えられるんじゃないかなと思います。

【西村委員長】

ありがとうございます。企画からプロモーション、在庫管理の話ですね。

【山田委員】

皆さん、こんにちは。山田でございます。本日はよろしく願いいたします。

無事にスイスから帰国しました。自粛明けです。昨日も抗体検査し、陰性でした。どうぞご安心ください。

まだ、黒部ルート的一般開放まで約3年あります。されど3年しかないという中で、運営主体としてJTBさんが選ばれ、まだまだこれからの取り組みが多く、ここで今からあれこれ言っても仕方がないかなとも思っています。

ただ、先ほどの渡辺先生と同じように課題を指摘すれば、はっきり言って「県民が参加しやすい仕組みづくり」以外は、全てマーケティングのことです。資料に並べた課題の順番の理由がよく分からない。なぜかという、マーケティングならば、ターゲットの詳細な分析と検討が最初に明記されなければならないのに、最初に商品造成しようとなっている。この課題の順番は、事務局が考えている優先順位でしょうか。それともたまたま、こんなふうになってしまったのでしょうか？今後進めて行く上でその考え方を時間がないのですが聞かせていただきたいと思いました。

先程のプロモーションの部分で渡辺先生からもお話がありましたが、4Pの中のプレイスとは販売チャンネルのことです。今後のプロモーション展開も含め、3年後も、この販売チャンネルだけで大丈夫でしょうか。しかもSNSで情報発信といっても、実際にツアーを買うと

きには旅行会社に行かなければならないのですか？現在の旅行会社だけの販売チャンネルで良いのでしょうか？3年以降のビジネスモデルをどれくらい予想しているのでしょうか？世の中、DX化でどんどん仕組みが変わって行く中で、今日来ていただいているJRさんやANAさんも同じですが、今後は売り方を時代に合わせないと売れるものも売れない。売れるものも売れないというのはどういうことかという、このツアーの価値がわかる客にお届けできないと言うことです。

気になる点は、JTBグループ内で販売等、ほとんどのことはできるのに、なぜ今回、観光販売システムズさんとフィールドデザインさんを入れざるを得なかったのでしょうか。長期的に考えれば、今後は県のDMOとかとどう組むかとか、もしくは黒部宇奈月温泉DMOとどう組むかという話が全く出てこないのですが、なぜなのか？

あとガイド養成に関しても、既に県でも「とやま観光未来創造塾」を開催しています。黒部市さんもやっている。そして、これからJTBさんもやる。これはちょっとムダじゃないですか。むしろ専門性を高めるなら、全く違う方法でやっていただいてもいいと思います。ダブるようなことをせずに人材育成は一つに集約して、認証制度なども考えるべきです。先程、連携という話も出ていましたので、一緒にやっていただきたいと思います。

あと、将来的に「県内滞在に向けた工夫」と書いてあるのですが、先ほど関電さんからの話にあったような歴史的な価値があるところを尖らせた商品で集客した人たちと、①～⑤の市場のどこどこが組み合わさるのか私には見えない。

東京オリンピック・パラリンピックにスポーツ観戦に来た人に無理矢理「自然体験しませんか？」と誘客するのと一緒に、なぜ皆さんがわざわざここにくるのかという目的と価値に整合性が必要です。そういう意味では、今後は可能性があることを並べていただいたのだと思います。

このコロナ禍でスイストラベルシステムはスイスパスのアプリケーションを進化させました。このアプリでは国内の旅行商品も買えます。3年後には日本のJRパスは紙ではないと思います。もう少しMaaSのような取り組みも入れて欲しい。JTBさんでも国内各地でMaaSに取り組んでいますので、将来性を見込んでもっと新しいチャレンジをやっていただいた方が良くと思います。色々時間が無いのにすみません。これからの期待も込めてお話をさせていただきました。よろしく願いいたします。

あと、一つすいません。「アドベンチャーツーリズム」の話がありましたけれど、JTBの相談役が会長を務めている「日本エコツーリズム協会」があります。ここにはアドベンチャーだけでなく、これからのSDGsや環境保全のことも考えればエコツーリズムも必要だと思います。以上です。

【西村委員長】

ありがとうございます。あとでまた反論があれば。

その前に、黒部市長の大野委員に、全体のことでまたコメントをいただければと思います。

【大野委員】

ご指名ありがとうございます。想定されている時間をかなりオーバーしておまして、どうなるか心配していたんですけど、あらかじめ最後に私にも話せる時間を与えますよということでありましたので図々しく、時間をオーバーしてはいますが、話をします。県の方に申し上げますけれど、これだけ真剣な議論ですから時間設定をもう少し考えてもらった方がいいかもしれません。

私からの意見を言います。この中の黒部ルートに関して、樺平から黒部ダム、逆もほしいんですけど、ダムから樺平。この日電歩道、水平歩道と言われるところ、踏破された方もおられると思います。私も一応踏破しております。そういったことで、このルートの開放については素晴らしいことだと。一番関係の深い黒部市ということではなくして、富山県の将来に大きく夢を開く一大事業というふうに私も思っております。その上で、簡潔に申し上げます。

まずJTBさん。運営主体になりますことについて、私は特に異論はございません。すごい会社ですから、頑張ってもらいたいと思っております。その気持ちはありますけれど、本日出された資料の中で、資料2ですね。「企画運營業務に関する提案」。これの右側の下段ですね。初めて出されたので、私はちょっと抵抗があったのは、県内滞在のルートをこれだけ具体的に書かれますと、どうも宇奈月温泉駅が出发点にしか見えないんですよ。ダムから立山を経て、その後こんなところへ行きますよというふうに見えちゃうので、これは出し方を少し考えてほしいなど。先ほどから話があったとおり、発着点という言い方をします、当然です。立山から黒部アルペンルートへ入って、そこから宇奈月に来るという方がおられるんですから。私は黒部の市長としては、宇奈月温泉のことだけを考えているわけではありません。非常に大事なことですよ。合わせて黒部川扇状地全体にすばらしい観光資源がありますので、こういうことをJTBの方は頭においてほしい。さらには、2市2町。魚津市、黒部市、入善町、朝日町。ここにダムから宇奈月温泉駅に降り立ったら、温泉も旅館も利用してもらおう。その中に大きな観光資源がありますよということは、ぜひ捉え直してほしい。今日出される資料としては、これはあまりにも狭い考え方、具体的なことを書きすぎているような気がします。そこを注意してください。そういう意味では、地元であります宇奈月温泉観光局と連携をとられると、こういう形にはならないんじゃないかと、私は思います。

それからガイドについては、本当に大事でして、ガイドについては、二通りのやり方があるんです。ひとつは思い切って、宇奈月温泉からダムへ行き、ダムからアルペンルートを通って立山へ行くという一気通貫でやるガイドを養成した方が良いのか、あるいは黒部ダムでガイドを変えることにする方法なのか。なぜこんなことを言うのかというと、立山黒部アルペンルートは50年の歴史がございます。従ってその部分を解説申し上げないといけませんから、これはそこで分けるべきなのか、あるいは一気通貫でやるものなのか。これはぜひ時間をかけて検討していただければと思います。

それから、私は前から言うておりましたが、いよいよ J T B さんが中心に運営主体になりましたので、もうそろそろ正式な名称を決めないと、なかなか売り出し方も難しいのではな
いかと、宣伝も。これからもずっと「黒部ルート」でいきますと J T B さんも困りますから、
ぜひこれは早いうちに名称を決めた方が良いと思います。

先般から私は、宇奈月黒部ダムルートだとか、宇奈月黒部ルートだとか、あるいは黒部宇
奈月黒部峡谷ダムルートとか、色々言うてましたけども、この辺りもうそろそろ思案すべき
じゃないかと。J T B さんも困るわけです、早くやらないと。ネーミングについては強く要
望しておきます。

それから工事の関係ですが、関電さんは大変今苦しいと思います。コロナのこともあり。
それでもなおかつ、目指すところまでに何とか工事を終わらせたいということで、ご努力な
さっていると思うんですが、ちょっと心配なのは、金沢・敦賀間の新幹線が、どうも 1 年開
業が遅れると。聞いていますと、この苦しい中で大丈夫かなという非常に心配をしておいま
す。藤井さん、そこはひとつ、ぜひ頑張ってください。本当に頼みますね。色々な別の作業
がありながらやっているという、コロナ禍で作業員の注意もしなくてはいけない。頑張っ
ていただければと思います。以上であります。すいません。

【西村委員長】

ありがとうございます。ネーミングやガイドの話、地元と J T B の協調の話がありました。
時間がオーバーしましたけれど、大変重要なコメントが続きましたので、あえて時間を区切
ることはしませんでした。事務局の方から今までのところで何かありますか。コメントの中
で何か今すぐに答えておきたいことがあればと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

色々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

事務局の方はいくつかだけ、ちょっと端折ってですが簡単にお答えできる部分だけ、お答
えさせていただきたいと思います。ご質問等をいただいた中で、DMO の高木委員様の方
から、まちなかの整備の国の制度ができたということでご紹介いただいた部分については、ち
よっと県の方でまだ詳細を調べておりますので、また黒部市さん等と連携をしながら、活用
模索等を検討してまいりたいと考えております。

同じく、天候が悪いというお話をいくつかいただいておりますが、今回県の方では V R 映
像というのを撮っております、これをぜひ活用して、それをどこでどう見せるかというの
は、ちょっとまだ検討の途中でございますが、ぜひ活用して、天候が悪い時でも体感ができ
るようなことを、また考えていきたいと思っております。

あと共通でいくつかいただいている中で、ガイドの養成も含めてですが、それぞれがバラ
バラでやっているのではないかとということをご指摘をいただいております。そちらの方
も、こういったご意見をいただいたことも踏まえて連携をとりながら、やってみたらそれぞ

れが全然バラバラで、全然使ってもらえなかったということにならないように、ぜひ連携を
してまいりたいと考えております。

あとはですね、TKKさんの方でPRにぜひ自社のものを、サイネージですとかをぜひ活
用してほしいということ。それはこちらの方も、ぜひお願いしたいと考えております。

あと1万人の枠のお話でございますが、今協定で決めておるのは、年間最大で1万人とい
うことでございます。

県の方からは、簡単でございますが以上でございます。

【西村委員長】

今、藤井委員から手が挙がっていますが、何か補足で。

【藤井委員】

人数枠1万人について、坂井委員からご質問を受けましたのでご回答させていただきます。
人数を増やすということは一言で申し上げると、少し困難かと思えます。大きな理由が
あります。ひとつは運用面でございます。ご存じのとおりこれは発電所建設の資材運搬用、
また作業員の運搬用に建設されたルートでございます。その日々のメンテナンスですと
か、先ほど申し上げました大型工事等の作業員、資材等の隙間をぬってお客さまにお乗りい
ただいている運用でございます。そういった中において、設備そのものも非常に狭いトンネ
ルの中でスピードをあげて運搬するというのは非常に困難ということで、物理的にはなか
なか難しいというのが2点目でございます。3点目は自然環境でございます。例えば6月
から10月の雪解けの後であれば8,000人くらいなんですけれども、幸いにして雪解けが早
ければ5月から、雪降るのが遅ければ11月までに、そうして初めて1万人ということでご
ざいますので、これは今申し上げたような形で、大変貴重ではありますけれども、プレミアム
としてぜひご認識いただいた上でさらに、河田さんからもお話がありましたように、地元の
次の新たな時代を創っていけるか。立山黒部アルペンルート、さらには富山県、そして世界
の中の日本全体のことで、活性化につなげていただければありがたいと考えております。

また、大野市長から工事に対する期待と激励をありがとうございます。頑張りたいと思
います。

【西村委員長】

ありがとうございます。事務局からはよろしいですか。JTBさん何かリアクションはあ
りますか。

【株式会社JTB富山支店 甲田観光開発プロデューサー】

はい。恐れ入ります、ありがとうございます。ご意見のありました「ターゲットに応じた
プロモーション」、「それに応じた販売施設の検討」、実際の商品化は3年後でございますけ

れど、それ以降のことに対してしっかりと、会社を含め、皆さまの意見をいただきましたもの、連携事業者様、富山県様と検討し計画を立てていきたいと思っておりますので、またよろしくお願いたします。

ネーミングにつきましても、連携事業者様や富山県様等ともお話をさせていただいております。「やはりアルペンルートの一部とならないように」だとか、あるいは「工事軌道の部分である」とか、こういった意見、そして関西電力様からいただいている、「困難に立ち向かわれた先人達への思い」、そういったものも含めたネーミングを検討していかなければと考えておりますので、こちらも早急に進めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

【西村委員長】

ありがとうございました。課題はたくさんありますけれども、今日はたくさん良い意見が出ましたので、これを前向きにとらえていただいて、進めていっていただきたいと思っております。それでは最後に事務局から。

【県 中谷観光・交通振興局長】

本日はお時間をもう少しいただいて、打ち合わせて、十分にお話をお聞きできれば本当に良かったと思っております。本当に申し訳ございませんでした。

ただ、コロナを経験して、ある面ではこの一般開放に向けてスタートを切る、良い時期だったのかもしれませんが。

今後、マイクロツーリズムだとか、それから量よりも質と、より付加価値の高いものを目指していくという、これから方向性にまさに合致する事業だと思っておりますので、ぜひ皆さまからご支援、ご協力をいただきながら、我々は一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

【司会】

皆さま、大変お忙しい中、本日は貴重なご意見をたくさんありがとうございました。それでは時間になりましたので、これをもちまして「第2回黒部ルート一般開放・旅行商品化準備会議」を閉会させていただきます。長時間にわたり、本当にありがとうございました。

以 上